

お に

鬼がぞろぞろ

だごだごころころ

石黒 漢子・梶山 俊夫 再話 梶山 俊夫 絵 福音館書店 Eーカ

むかしむかしあるところに、きのいいじいさんとばあさんがおりました。じいさんがはたけにいもほりにいくと、ばあさんはだご（だんご）をつくって、もっていきました。じいさんがたべようとすると、だごはぽろりとおちてしまい、ころころころがって、おにのすむあなのなかへは行っていきました。

ソメコとオニ

斎藤 隆介 作 滝平 二郎 絵 岩崎書店 Eータ

ソメコは五つです。ソメコはまいにちタイクツしていました。おとなたちはだれも、いっしょにあそんでくれません。ところがある日、ソメコが草をつんであそんでいると、ひとりのおじさんがやってきました。ソメコがどろのおダンゴをすすめると、どこかこわいかおをしたおじさんは、うまそうにどろダンゴをたべるマネをしてくれます。

かえるをのんだととさん

日野 十成 再話 斎藤 隆夫 絵 福音館書店 Eーサ

むかしあるところに、なかのいい ととさんと かかさんがすんでいました。あるひ、ととさんのはらがいたくなかったので、おてらのおしょうさまにどうしたらいいかきいてみることにします。するとおしょうさまは「はらのなかに むしがおるせいじゃ。かえるをのむといいぞ」といいました。

鬼が出た

大西 廣 文 梶山 俊夫 ほか 絵 福音館書店 387-オ

「鬼は外！福は内！」毎年、二月になると、あちこちから節分の豆まきの声が聞こえます。威勢よく声をはりあげ、外にむかって豆をまきます。でも、目の前にほんとうに鬼がいたらどうだろうって考えたことはありませんか。この本には、いろいろな鬼たちが紹介されています。

龍の子太郎

松谷 みよ子 著 講談社 913-マ

龍の子太郎はまいにち、やまにのぼってはうたをうたい、けものたちとあそんでいました。ある日、山でふえをふいている女の子、あやとなかよくなります。けものたちはあやのふえがだいすきで、ふえがなりだすとみんなあつまってきます。ところがそこへ、一匹の赤おにがやってきました。

じごくのそうべえ

たじま ゆきひこ 作 童心社 E-タ

かるわざしのそうべえは、つなわたりにしっばいしてじごくにおちてしまいました。そこでであったいしゃ・やまぶし・歯ぬきしとそうべえの四にんは、おににくわれたり、ねっとうのかまへたたきこまれたりするたび、ちからをあわせてきりぬけます。

おとぎ草子

大岡 信 作 岩波書店 913-オ

ある日の夕暮、中納言くにたかというかたの姫君が、とつぜん姿を消してしまいました。両親のなげきはたいへんなもので、八方手をつくしましたが姫君の行方はわかりません。そのとき、中納言は有名な博士のことを思い出し、占ってもらうことにしました。博士は、「姫君をさらったものは丹波の国大江山に住む鬼神でございます。」と占います。（『酒吞童子』）